

# 若者と連携した多文化共生意識の醸成

静岡文化芸術大学 文化政策学部 国際文化学科 佐伯ゼミ

指導教員：准教授 佐伯康考

参加学生：ラアディティア、木下姫菜、佐藤未空、平野伶奈、  
松下琶音、室津美桜、天野凌、大脇央、鈴木ひばり、榊原七瀬、永井柚羽、中谷有里、  
渡邊さら、安藤うらら、森川クララ、山川遥奈、柳田美咲

## 1 要約

本研究では、多文化共生都市・浜松に所在する静岡文化芸術大学で学ぶ外国にルーツを持つゼミ生たちが中心となり、静岡県内の多文化共生意識を醸成するための手法について、浜松市内で学ぶ多様な背景を持った若者たちとともに究明し、多様性を活かした地域づくりへの貢献を目指した。静岡県が2025年から新たに定めた「多文化共生月間」をPRするポスター制作プロジェクトを立ち上げ、県全域への掲示、シンポジウムでの発表、国際フェアでのブース出展等を通じて、多文化共生意識の醸成に取り組んだ。

## 2 研究の目的

静岡県内の多文化共生意識を醸成するための手法について、浜松市内で学ぶ多様な背景を持った若者たちとともに究明し、多様性を活かした地域づくりへの貢献を目指す。特に、外国にルーツを持つ学生たちが主体的に参画することで、当事者視点を活かした多文化共生の推進を図る。

## 3 研究の内容

静岡県は2025年から新たに12月を「多文化共生月間」と定め、国籍や文化、年齢を超えて皆が一緒に作る新しい「多文化共生県」に向けた取組を強化している。そこで、この「多文化共生月間」をPRするため、本学国際文化学科の多様な背景を持つ学生たちによる「多文化共生月間ポスターデザイン制作プロジェクト」を立ち上げた。

プロジェクトでは、学生たちが何度もミーティングを行い、静岡県の未来や多文化共生のあり方について議論を重ねた。また、国際交流協会の職員や外国にルーツを持つ地域住民の方々とも意見交換を行い、デザインの方向性を深めてポスターを完成させた。さらに、完成したポスターを浜松日本語学院の留学生たちに紹介するとともに、静岡県での多文化共生意識の醸成について意見交換を行った。

加えて、2026年1月24日（土）・25日（日）にららぽーと磐田で開催された「磐田・袋井・掛川国際フェア」にも佐伯ゼミとしてブースを両日出展し、親子連れを中心に世界のあいさつ体験と地図作成を通じた異文化体験企画を実施した。

## 4 研究の成果

当初の計画	実際の内容とその理由	実績・成果と課題	今後の改善点や対策
多文化共生月間ポスターの制作	【A：予定どおり】学生主体でデザインを検討し、国際交流協会職員や地域住民との意見交換を経て完成	静岡県全域にポスターを掲示。浜松日本語学院留学生との意見交換も実施	より多様な背景を持つ学生の参画、制作プロセスの可視化
シンポジウムでの発表	【B：一部は修正】静岡インターカルチュラルシンポジウム 2025 に登壇	2025年12月17日グランシップにてプレゼンテーション実施。制作過程は大学公式YouTubeチャンネルに掲載	発表内容の記録・アーカイブ化、他地域への横展開
インターナショナルフェアへの出展	【A：予定どおり】磐田・袋井・掛川インターナショナルフェアに両日出展	2026年1月24-25日、両日合計200名超が参加。世界のあいさつ体験・地図作成企画を実施し、多方面から高評価	参加者アンケートの実施、効果測定の精緻化

## 5 課題提出者・地域への提言

本プロジェクトを通じて、外国にルーツを持つ若者が主体的に多文化共生の推進に関わることの重要性が確認された。今後も大学と地域が連携し、若者の視点を活かした多文化共生施策の立案・実施が望まれる。また、「多文化共生月間」のような啓発活動を継続的に展開し、県民全体の意識醸成を図ることが重要である。

## 6 課題提出者・地域からの評価

静岡県庁企画部多文化共生課をはじめ多方面から、「若者と連携した多文化共生意識の醸成」に貢献する取組として高い評価をいただき、当社は予定していなかった、「静岡インターカルチュラルシンポジウム 2025」にも登壇することとなった。

また磐田・袋井・掛川インターナショナルフェアにも佐伯ゼミと JICA との連携を進めてブースを出展し、両日合計で 200 名を超える方々にブースで学生たちの多文化共生企画へ参加いただいた。親子連れを中心に楽しみながら異文化に触れ、世界や多文化共生に親しみをもちてもらい、「若者と連携した多文化共生意識の醸成」という本課題の目的を達成することができた。